

黎明紙第352号御研鑽

明主様が、かつて日比谷公会堂におきまして御光話下さいました時の後半部分の御録音を拝聴させていただきます。

前半におきまして、明主様は、これ

から愈々神様が地上天国、昼の世界、あるいは真の文明世界、全ての人が真に救われた幸せな文明世界である地上天国を創造される時期になつてきたと御教え下さつております。また別の御

表現では、今まで比較的悪が支配的であつた世の中でございましたけれども、それが愈々善が支配的な世の中になつてくるということをごぞいます。

さらに、生命の安全が確保された、そういう素晴らしい世界を、これから神様が創造していかれるとも御教え頂いたわけでございます。従いまして私共人間はその素晴らしい、美しい世界に相応しい魂を持った人間に一人一人がなつていかなければいけないということを仰ったわけでございます。

その前半の御教えに引き続きまして、後半の部分におきましては、これから神様が地上天国を創造していかれます時に、それと同時に靈界がだんだん明るくなつてくると御教え下さっております。「明るくなる」ということは、だんだん靈界が淨まつてくるということでございます。従つて私共人間の魂も、その淨まつた美しい靈界に相応しくなつていかなければいけないわけでございます。

そういう時期が愈々近付いたということを世の中の人々、世界中の人々に一日も早く知らせて、そして一人残らずの人間が、そういう素晴らしい世の中に生かさせていただくお許しが頂けるようにならなければいけないということを仰っているわけです。

そしてこの御講話の最後の締め括りといたしまして「ノアの方舟」、これは旧約聖書にあるわけでございますけれども、そのノアの方舟を喻えにひかれるわけでございます。明主様は、ここで御教え下さいましたことを、今自分が言つても、ちょうどノアの方舟の時と同じように、誰も信じないかもしだれども、これは本当の事なんだと仰るわけでございます。ですから、何とか皆がその事に目

覚めてほしいと仰つて、最後の締め括りをして下さるわけでございます。

なおこの中で人名として「徳川さん」がさつき話したと
いうことで、靈界のことをちょっと仰るわけでございます
けれども、これは徳川夢声さんの事でありまして、日比谷
公会堂で明主様がお話下さいます前に、徳川夢声さんがご
自分の体験談を話されたわけで、それを指しておられます。
それからもう一人「鈴木さん」と仰る方がご自身の体
験談をお話されたわけで、それを受けて明主様は御教え下
さつているわけでございます。

明主様が、この後半部分でお話下さいましたように、こ
れからだんだん靈界が明るくなつていく、だんだん靈界が
淨まつた、大変良い世の中になつていくわけでございま

す。一方で、前半の部分の御教えでは、これからだんだん善の勝つた、善の支配的な、そういう世の中になっていくこと、それから病気、貧乏、争いというような苦しみが根本から解決された、つまり生命の安全が確保された、そういう素晴らしい世の中を、これから神様は創造していかれる時期が々切迫しているということを、仰つておられたわけでございます。

先達ても申し上げましたように、明主様の説かれました数々の御神書の中で、ここで御教え下さっておりますことが一番根幹をなしているわけであります。そういう地上天国という世界が近付いているから、その素晴らしい地上天国、靈界が明るい、そういう美しい世の中に相応しい魂の人間に、今のうちに一人一人がなつていかなければいけな

いということでございます。そのために、今まで行つてきました間違ったことについての悔い改めを明主様は私共に勧告して下さつて いるわけでございます。

もちろん今までにも心の美しい、魂の清まつた方もたくさんおられたわけでしようけれども、私共、大部分の者は、やはり神様に背き、また神様の御心に反したことたくさんして き て いるわ け で す。こ れ は もちろん、私共は靈界と現界の間を何回も往復しているわ け で す か ら、この今世だけの事ではなくて、前世、あるいは前々世、あるいはさらに前々々世、それ以前の事も、全て含まれるわ け で す。その間、私共人間は、神様の御心に反したこともたくさんして き て いるわ け で あり ま し て、そ う い う こ と を 心 から悔い改めて、これからは神様の御心に叶つた魂の人間に

ならせていただくという気持ちを強く持たせていただいた時に初めて、神様は私共の一切のそういう誤りを許して下さり、これからのは素晴らしい地上天国に永遠に残して下さるわけでございます。

もちろん神様は全ての人間を救おうとして下さっているわけです。けれども人間の方がそういう神様の御心に叶うようにならせていただこうという気持ちにならなければ、神様は大変に悲しまれるわけです。その結果、そういう気持ちにならない人間は地上天国に残していただけないことになってしまうわけです。

実際考えてみると、現在の私共のように、ただ自分だけ良ければ良いと考えたり、他人が少しぐらい苦しんでいてもいいというような心の持ち主ばかりが集まっていたの

では、いくら世の中を良くしようと思いましても、良くはならないわけです。やはり私共一人一人が、神様の御心に叶つた魂の人間にならせていただいて初めて、この世に地上天国が創造されていくわけでございます。

この地上天国の創造ということは、私共にとつて大変に喜ばしい、嬉しいことでござります。けれども、一方において私共は、そういう美しい、素晴らしい世界に相応しい人間になるように、これから努力していかなければいけないということでもあるわけです。

ところで、どうすることが神様の御心に叶うことなのかということは、明主様の御教の一言一句の中に込めて下さっているわけでございます。ですから、その明主様のお説き下さいました御教えに、私共の行いが一つ一つ添つて

いくことで、誰しもが永遠に御救い頂ける道を進ませていただけるわけでございます。その事を明主様は、説き明かして下さつて いるわけでございます。

神様の御心に叶う一番根本として、明主様が何時も仰つておられますように、まず人間は誰しもが、誠、利他愛という気持ちにならなければいけないということでございます。神様の御心は、世の中の全ての者が救われることでござります。その事を神様は望んでおられるわけです。ある限られた者だけが幸せでいいということではないわけじて、神様は全世界の全ての人々が幸せになることを望んでおられるわけです。従つて私共も、その神様の御心に少しでも近寄らせていただかなければいけないわけでございます。

最近はだんだん、世間一般でも、世界の人々、人類全体の幸福ということが言われ出してきているわけでして、これは大変喜ばしいことだと思います。

私共はどちらかと申しますと、現在世界的な目から見れば、かなり恵まれた境遇にあると申し上げても良いと思うのでございます。現在、世の中には、まだまだ色々な形で苦しんでいる方がたくさんおられるわけです。そういう世の中の全ての方々が幸せになられるように、全ての方々が神様のこの御救いの綱に掴まらせていただかれるようにさせていただくことが、先ず私共にとつて最も大切なことではないかと思うのでございます。

そのために、これは前半の部分で明主様が仰つておられたわけでありますけれども、明主様は先ず、『文明の創

造」の御神書を頂点とする神様の御救いの御教え、真理の御教えを一日も早く全世界の人々に知らせてほしいという事を仰っているわけでございます。この後半の御録音の中でも明主様は「可哀想だからと言うので、この事を知らせると、知らせて助けなければならぬと言うのが、神様の御意志であると。で、私は神様に、それを命ぜられた。

そして、ま、こうしてお知らせするわけなのです』『人を救うには早く、大勢の人々に、それを耳に入れなければならん』と2回も仰つておられます。こういうことを自分が言うと、大それたことのようで、自分としては辛いんだけども、その事を言わなければ、世の中の人が救われないから、だから一日も早く大勢の人々にこの事を伝える、先ずそ

の第一歩として、このお話をしたんだということを仰つておられるわけです。

日比谷公会堂において、当時、今から三十年前に、初めて世間一般の方を対象に、こういうお話を明主様はされたわけでございます。これがさらに拡大して、いよいよ私共の周囲の方々、さらにはもう一步進んで全世界の方々に、この事を伝えるということが、神様の一番の御意志であるわけでございます。一日も早く大勢の人々に、この事を先ず知らせなければいけないということをございます。

私共は、明主様のこの御教えを世の中の方々にお伝えさせていただく、先ずその第一歩を踏み出させていただくわけでございます。

その御教えと同時に、私共は神様の御救いの御光、御力を頂いているわけでございます。神様は、私共だけではなくて、世の中、全ての人々を救おうとされる御心の現れとして、この御淨靈の御力、神様の御救いの御力のお取次ぎを、私共にお許し下さっているわけでございます。

私共の頂いておりますこの御守様については、今まで何回も申し上げていることでございます。この御守様を通して、もちろん私共自身も神様は守つて下さいますけれども、それだけではございません。この尊い御守様一体一体には、この世の中の全ての人々が救われるようについて神様の御心が込められているわけでございます。その御守様を私共は胸に頂いているわけでございます。

その神様の御心の現れとして、私共はいつ何時でも、またいかなる所においても、この神様の御光をお取次ぎさせていただくことができるわけでございます。この御光を、これから一人でも多くの方々にお取次ぎさせていただき、またこの御救いの御教えを一人でも多くの方々にお伝えさせていただくということを、これから一生懸命させていただきたいと思います。

これから神様は色々な形でもつて御神業を進めていかれると思います。また私共一人一人に、色々なお役を与えて下さると思うのでございます。その時に、私共は、それぞれの与えていただいた使命を十分に全うさせていただきたいわけです。もちろんこの黎明教会にも神様は多くのお役割、使命を与えて下さっていると思うのでございます。神

様から賜りましたそれぞれの使命を十分に果たさせていた
だいて、そして一日も早く、世の中の方々が神様の
御救いのもう縄に掴まらせていただきながらまして、本当に素
晴しい地上天国が創造されるように、一人一人が努力させ
ていただきたいと思います。

一人一人の力というのは大変細やかでありますし、個人
個人は色々な壁にぶつかる場合もあると思います。そうい
う時には、お互い手を取り合って、助け合って進ませてい
ただきたいと思います。助け合うと申しましても、ただ表
面的な安易なことではなくて、もつともっと深く大きい、
神様の愛の御心に少しでも近寄らせていただきて、進ませ
ていただきたいと思うわけでございます。これから年月
が「本当に素晴らしい年月であった」というようにお互いに

喜ばせていただけるように、これから努力させていただきたいと思います。

(一九八二年一月一日)